

2026.4.2 (木)
第 37 回例会
(通算3846回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会 長 荒井 剛
副 会 長 池田 一己
幹 事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
R1 会長 フランチェスコ・アレツォ
第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 下期情報集会報告 (クラブ研修委員会)

次週例会 講師例会「こどもも大人も自分を実感できる地域に」(プログラム委員会)

- ロータリーソング：君が代・奉仕の理想
- ソングリーダー：佐々木 弘幸君
- 会員数 104 名
- ビジター
- ゲスト

会長の時間 荒井 剛会長

皆さん、こんにちは。さて、4月も2日になりました。4月は新年度が始まって、いろいろな制度も始まっています。私は弁護士という仕事柄、特に注目しているというか、どうなるのかと戦々恐々としているのが「共同親権制度」です。今までは、離婚した時に男性か女性かどちらかの片親の親権だったのが、共同親権も選べることになったのです。それが、実際はどうか。今年4月1日から制度として始まっているのですが、4月1日より前に離婚された当事者にも遡って適用されることがあるので、過去の方も申し立てができるので、この事件がどのくらい増えるのか戦々恐々としているところです。



昨日、北ロータリークラブが主催の職業奉仕講演会に吉田潤司パストガバナー、後藤パスト会長、横田幹事、佐々木会員、西村次年度ガバナー補佐の6人で参加してまいりました。

「職業奉仕講演会」のテーマは「ロータリーの職業奉仕の成り立ちと今」ということで、職業奉仕の歴史などを足立パストガバナーに話していただきました。ロータリーの根幹となる職業奉仕の理論的な部分の話聞く機会はなかったので、1時間くらいでしたが頭がパンクするような感じで、過去のいろいろなロータ

リーの決議案やロータリー要綱などいろいろなものが出てきて、消化するのに時間もかかったのです。

1905年にロータリークラブが創立されたあと、1907年に公衆便所を設立するというのが社会奉仕事業の初めての事業でした。社会奉仕と職業奉仕はどう違うのか、どちらを優先するのか、の議論。社会奉仕はクラブとして奉仕事業を行う、それを重視するべきではないかという話。職業奉仕を重視するというのは、自らの職業をとおして個々人が奉仕するのがメインではないか、という議論。そのふたつが対立するということ、どちらを重視するべきかという話が歴史上にあって、1923年のセントルイスでの国際大会での決議23、24と言われているもので、概ね決着がついたのではないかという話もありました。

どのような決着がついたのかというと、ロータリーにはふたつの奉仕・理念がある。ロータリーの個々人が自分の職業を通じて奉仕する個人奉仕、これを職業奉仕。のみならず、クラブとして行う事業などの団体としての社会奉仕の両方を認めつつ、ただ、クラブの社会奉仕事業というのは会員個人の訓練の場だ。ロータリアンの本心・本能としては自分の職業そのものとおして奉仕の理念を実践すること。

これを言われたので、ロータリークラブとライオンズクラブは何が違うのかという話が出たときに、クラブとして奉仕をする、クラブ全体として奉仕するのがライオンズクラブ。個々人が奉仕をして社会に貢献するというのがロータリークラブだと言われる由縁ではないかと思います。

その元となっているのがセントルイスの国際大会の決議案だと改めて認識することができました。職業奉仕という言葉、これを英語で言うと Vocational Service、それを英訳すると就労支援という意味なのです。ただ、ロータリーでの Vocational Service、これを職業奉仕と訳されているのはロータリーでしか使われていない特有の言葉だと言われました。もともと職業奉仕という言葉自体が矛盾を含んでいるのではないかという話もありました。職業というのは仕事なので、仕事というと利益を追求するというものですから、利益を追求するという意味の職業というのと、奉仕は社会に奉仕をするということで利他の精神です。利己の精神と利他の精神で少し矛盾している概念を一緒にしているのが職業奉仕なのではないか、と言われていたこともあったという話を聞いています。最終的に、ロータリーの標語である「超我の奉仕」という言葉がありますが、利他の精神で何事も取り組む。職業に関しても、自らの職業をとおして社会に奉仕するというので、利他の精神で自らの職業を實踐して、高い倫理基準をもって実践して社会に奉仕する、これが最終的な職業奉仕であり、ロータリーのもともとの、本来の部分になるのではないかと、昨日の足立パストガバナーの話聞いて、自分なりにまとめてみて、短い時間ではありましたが、ぜんぜんまとまっていなかもかもしれませんが、私の理解として皆さまにお伝えさせていただきました。これで会長あいさつを終わらせていただきます。以上です。

幹事報告 横田 英喜幹事

4月になりましたので、ロータリーレートが変わりました。お手元の例会案内で156円となっていますが、それは3月のものです。先ほど発表された4月のレートは160円になりましたのでご確認をお願いします。

パーソナルボックスに「ロータリーの友」を配布しておりますので、今日お持ち帰りいただければと思います。

昨日、「ガバナー月信」を皆さまにメールで送らせていただきました。よろしく願いいたします。

退会ごあいさつ

田坂 涉君

皆さん、こんにちは。4月1日付けで人事の発令がありまして、大地みらい信用金庫釧路支店から厚岸支店への着任が発令



されました。

釧路クラブに入会をさせていただいたのが令和5年6月ということで、足掛け3年となります。2週間前に川島さんがお話されていて、私も、たしか入会した時には親睦活動委員会に所属させていただきました。当時は、横田委員長だったことをその時に初めて知りました。今も、副幹事として隣に座らせていただいている、その時からご縁があったのだなと感じているところです。

入会の時には、スポンサーに西村さんと尾越さんになっていただきました。西村さんから最初の時にお話させていただいたことがとても印象に残っております。「最近の大地みらいはなかなか参加をしないので、今回、来た支店長は参加をしてくれると思う」というお言葉をいただきました。その言葉を胸に、できる限り参加させていただいて、後藤会長がおっしゃっていた「義務ではなく、権利を行使してください」というのを自分なりに意識をしてこの三年間、伝統と歴史のある釧路クラブに参加させていただいたこと、自分の中で本当に成長する機会となりました。

前のほうに、池田副会長、互理副幹事と、大地みらい信用金庫出身の3名がおりますので、そういうご縁もいただいていたのだなと入会当時から伝統があるのですけれど、いろいろな縁をいただいてこの場に立たせていることに感謝を申し上げます。

三年間という期間でしたが、自分自身はいろいろな出会いと、いろいろなお言葉をいただけたことが成長につながりましたので、次の新任地は厚岸ということで、厚岸にもロータリークラブがあるということですから、区分は違いますがまた交流をさせていただければと思っております。

本当に三年間、お世話になりました。ありがとうございました。

■本日のプログラム■ 下期情報集会報告

クラブ研修委員会 滝越 康雄委員長

こんにちは。クラブ研修委員長の滝越です。よろしく願いいたします。



今日は、過日、4日間にわたり開

催されました釧路ロータリークラブ情報集会、いわゆる炉辺会合の各チームの発表をお願いしております。

今回は、「クラブテーマは会長方針の原点に帰って行った方がいいのではないか」という会員のアドバイスを受けまして、会長方針に沿ったテーマとして、特

段絞り込んだテーマを出さなかったのですが、それでもいろいろな議論が進んでおりました。延べ出席人員が65名。出席者を見ると、判で押したように9人、9人、9人と。2チームが欠けたくらいで勘定のしやすい出席者数でした。それでは早速、Aグループからサブリーダーに発表をお願いします。前回はそうでしたが、次の発表の方は往復時間の省略のためにこちらで待機してください。お願いいたします。

Aグループ



皆さん、こんにちは。Aグループは本間が報告させていただきます。

パスト会長の言葉ですが、「まだ入会の浅いころ、ロータリー

の意味を深く理解していなかったが、年数を重ね、役職を経験し、先輩方の姿を見る中で若手の見本になるよう心がけるようになり、ロータリーとはすべてが学びの場、自分を磨く場所なのだという事に気づいた。そして、そのほかにも多くを学んだ。経験年数に関係なく、クラブの役に立ちたいという姿勢や仕事への向き合い方、人との接し方、礼儀やマナーなど、ロータリーの間を通じて自然と身に付けることができた。今の自分を作ってくれたのはこのクラブだと言っても過言ではない。

また、重ねて、若い時期には、できるだけ例会に出席することが大切だと思う言葉もありました。「出席を重ねることで、人とのつながりが生まれ、そこから学びや成長が生まれる。量を重ねることで質が高まる」と、実感されたそうです。Aグループに参加されたパスト会長の全員が貴重な経験をお話されました。

一方で、「ロータリーの良さは厳しさだけではなく、温かさや居心地の良さにある。忙しくてなかなか出席できない時期があっても、温かく迎えてくれる仲間がいる。その雰囲気があるからこそ長く続けていけるのだ」という参加者の声もありました。

これまで先輩方から受け継いできた、この良い雰囲気や文化など、歴史と伝統を私たちが次の世代につないでいくことが大切だと感じました。その継承こそが周年やガバナー輩出など、いざという時に強い信頼と絆でまとまるのが釧路ロータリークラブである。ロータリーを通じてお互いに成長しながら、これからは笑顔・笑顔で楽しく、そして、誇りを持てるクラブをみんなで作って行くことが私たちの挑戦だ、ということを経験し、サブリーダーを務める中で学ぶことができました。最後に、話しやすい雰囲気を作ってくださいましたリーダーの関向さん、ご参加いただいたみなさんに感

謝申し上げます。

以上、Aグループの報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

Bグループ



皆さん、こんにちは。Bグループのご報告をさせていただきますサブリーダーの佐々木です。よろしくお願いたします。

Bグループは3月16日、18時半から『四季の味わい・醍醐』で開催しました。クラブ研修委員会の滝越委員長、荒井会長、川本さん、曾我部さん、藤原さん、日銀の佐々木さんと私の7名で、染宮さんが急にリーダーができなくなったみたいで、藤原さんがリーダーとなって行われました。

最初に、滝越委員長から乾杯のご発声をいただき、今回のテーマ「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」の内容について話していただきました。

荒井会長から、今年度掲げられたスローガンである今回のテーマについて思いを語っていただきました。例会で話してもらっていますが、笑顔で親睦や交流を大切にするクラブの雰囲気を作る。誇りを持ってロータリアンとして自覚を持って社会に貢献すること。新しい活動や変革に意識を持って挑戦することが大切だ、とおっしゃっておいりました。

私が個人的にも、個人が挑戦するということは、自分自身の成長につながるのだと日々感じております。

荒井会長から「日々、挑戦されていることありますか」という話がありました。そこで、日銀の佐々木さんが「前に、サッカーのコーチをしていたことがあった。今期は釧路市内の社会人チームに入った」と言っておりました。そんな挑戦もあるということで、お酒が入った中で談話していて、「今後のロータリーについて、挑戦については、メイクアップ委員会を作ってみてはどうか。他のロータリーに参加して、どのような例会か、どのような活動をされているかを改めて確かめたい。今後の釧路ロータリーの活動の幅を広げて行くのはどうだろう」という意見がありました。

このようにお酒を飲みながら、分け隔てなく真剣に話し合うことは、歴史と伝統のある釧路ロータリークラブにしかできないことです。良さだなど思いました。とても有意義な時間の会を過ごすことができました。簡単ではありましたが、以上が報告になります。ありがとうございました。

Cグループ



Cグループ、サブリーダーの石井です。Aグループ、Bグループが非常にまじめな報告をしているので、私は3番目なので少し落とした感じでいきますのでご了承ください。

Cグループは3月26日に『はたご家』で開催しました。当グループは、会長経験者が6名、ガバナー経験者が2名、最年長会員が1名、なんとも肩書の多い重鎮メンバーがそろっております。どのように話がまとまるか、不安な中をスタートしました。

テーブル配置も、自然に今日のようにきれいに分かれましました。進行がとても楽になる座席配置が自然に出来上がりました。なるほど、と思いました。

本会合のテーマ、挑戦するロータリーについて、冒頭に高橋研修委員から趣旨説明があって、お酒が入って和気あいあいとスタートしました。このまま行くと、ただの飲み会で終わるのではないかと思うくらいで、いつ本題に入るのかヤキモキしていたのですが、「鉏路クラブの今後の大きな活動を確認しよう」となりました。

今年の10月に90周年記念事業があります。来年にはIMが行われる。そしていよいよ、荒井ガバナーの活動が始まる。しばらく大変な事業が当クラブ主導で続くことを出席会員みんな確認して、認識して話し合いました。

そこで、最年長会員である青田パスト会長から、「これらは当然、大事な事業であるのだが、なんとと言っても、その前に今年の8月には『ニトリレディースゴルフ』が鉏路カントリーで開催される。こちらも大変な事業なのだ」と説明がありました。参加メンバーにはゴルフが大好きなメンバーが多かったので、みなさんはこれに興味津々に聞き入っていて、するともういい時間になってしまっていて、最後の締めめのデザートが出てきてしまいました。

このままでは、私の発表内容がまとまらないとヤキモキしていたら、さすが青田パスト会長を筆頭に、「鉏路クラブは在籍100名以上いる。90周年を皮切りに全員が協力してバランスよく、みんなでクラブを育て上げる。これにより、クラブの雰囲気が変わり、個々に自信が付いてくる。いつも同じメンバーだけで固まらないようにして、全員参加でみんなの自信をつけることが重要である」とおっしゃっていただきました。「また、鉏路クラブは優秀な人材が多いので、まあ、私たちは何も心配していないよ。何も言わないから、若い人たちで頑張れ」と最後は、応援の言葉をいただきました。

ありがとうございました。以上、Cグループの発表でした。

Dグループ



Dグループの八幡です。サブリーダーの川島さんが転勤をされてしまったので代わりに発表させていただきます。

Dグループは10名の参加があり、さまざまな議論がありました。テーマが『挑戦するロータリー』でしたので、これから90周年があり、IMがあり、そしてガバナーを輩出する、ということから鉏路クラブとしてもこれから挑戦する時期が来るであろうという話がありました。

「ガバナーを輩出する年に、あるいはそこに向けて、クラブとして変革が過去に起きていたことがあったので、いい変化があるのではないか」という先輩の話もありました。

その中でテーマに挙げるのが適切かどうかかわからないですけども、直前に女性会員の方の入会を問う案内がありましたので、「鉏路クラブとしては地元の女性会員がいなかった中で、新しい方が入るといことは、大きな挑戦になるのではないか」という発言がありました。

その中で、僕には意外だったんですけども、過去には「この方、入会して良いですか」というお伺いのメールが流れた時に「いや、その人はやめておいたほうが良い」みたいな話があったようで、僕はそういうのを知らなかったので「そんなこともあるんですね」みたいに感じていたんですけど、「意外とあるよ」「こんなこともあったね」と話が盛り上がりました。その中であったのが、入会に反対の意見を述べた方が、「あの人が反対していたという話が外部に漏れてしまった」と話されていて、「そういうのは良くないよね」となって、いろいろドラマがあるのだなと感じました。

そこから転じて「挑戦するロータリー」というところでは、鉏路クラブとしてのステータスを考えた時には、「どなたでもいいというわけではなくて、信頼できる方に入会していただけるといいね」というのがあったり、「今後は、より若い方々への浸透があればいいね」というのがあったりしました。そういう若い方々への訴求できる部分では、最近の若い方々にはいわゆるタイムパフォーマンスとかコストパフォーマンスなどで、「それは無駄じゃないか」とか自分がやりたいこと以外に時間を割くのを避ける傾向がある中で、「ロータリークラブはともすると、そういう人たちの価値観からすると無駄に見えてしまうことがあるのだろう」

という議論がありました。「一見、直接的には価値がない・無駄に見えたとしても、意図しない出会いがあったり、つながりができたり、それが最終的にいろんな広がりができたりします。これがロータリークラブの良いところだよ」という議論があって、ここがなかなか伝わりにくいのですけれども、「今後、つながりが広まって釧路クラブの良さが浸透してより盛会になっていくといいね」という議論がありました。以上でございます。

Eグループ



Eグループ、佐藤です。Eグループは3月23日、『ぼくぜん運動公園通店』で開催しております。8名の参加で高橋情報委員を中心に

終始、和やかに開催しております。

私事なのですが、当日は親睦委員会と重なっておりまして親睦委員長に「どうしたらいいですか」と確認したら、「情報委員会のほうに行っていよいよ」となってEグループ参加したら、私はリーダーでもサブリーダーでもないのですけれども、役が回ってきたのです。当日は浅川さんが仕切っていて、サブの森村さんから指令を受けていたらしいのですけど、さらに代打の代打で浅川さんから私のほうに指令があったので、私から発表をさせていただきます。

当日は終始、和やかだったのですけれども、お店の都合上焼肉店ということでどうしてもテーブルごとに分かれてしまい、肉を焼き始めると隣の席の話が聞こえなくなる感じですが、脇さんを中心に「これからIMがある、周年がある、その後には荒井ガバナーが誕生する」というお話をCグループの石井さんの話と同じような感じで進んでおりました。こちらに五十嵐リーダーと脇さんと得地さんと浅川さんという釧路クラブの中核のような方がおられて、私と水口さんと情報委員の高橋さんと平岩さんがこちらのテーブルに座っておりました。脇さんのほうのテーブルでは、日本の夜明けみたいな、武士のような話をされておられて、こっちは終始和やかにお話をしておりました。すみませんカットをお願いしますね。私がオープンした時から使っていたガス会社が廃業になって、去年の秋から水口さんの会社からガスを供給していただいていた。そんなことから「トランプがいろいろやって、ガスは値上がりしないですか」という話をしていたら、高橋さんも「クリーニング店も、原油上がって大変ですね」と。私は、初めて平岩さんとお話をする機会だったのですけども、「家賃、上がりますか」と言うと、水口さんは「利回りって、どん

な感じなのですか」とか、不動産の聞いたことのない話で進んで行きました。あまり言うてはいけないのかもしれないですけど、「ちゃんと運用すれば、NISAよりいいよ」と話されて、「じゃあ、水口さんと2人共同でやりませんか」や「ガスは全部プロパンに切り替えましょう」などと話をしていたら、水口さんが「工事は俺ができるよ」となって、そのような話でこちらのテーブルは盛り上がったので、すぐくためになる情報集会だなという感じでした。

いつも情報集会はそうなのですからけれども、私みたいに話したことない方と同じテーブルで一緒になるのが貴重な経験だなと思います。平岩さんとは、私にとっては初めてあいさつしたかなぐらいの方でしたが、同じテーブルに座ると大企業の大先輩の方ですけども、気さくに情報交換をしていただけて、本当に素晴らしいと毎回思うことです。

そういう機会をいただいた中島親睦委員長、本当にありがとうございました。という形でEグループの発表とさせていただきます。ありがとうございました。

Fグループ



Fグループのサブリーダーの清水です。なかなかこの中では久しぶりという方も多いかもかもしれません。われわれのFグループは、後藤さんを入れて9名だったような気がします。

ご配慮いただいて私の出る日に、みんなが来てくれるなんてすごく嬉しいことで、僕もこれは行かなきゃいけない、となりました。当日は、ちょっと寒くて体が動かないかなと思ったのですけども、行ってみたら、みんなが待っていてくださって、お誕生日かと勘違いするくらいでした。

今日は、もう皆さんがいろんな話をされていて僕が個人的に言うことはないのですが、考えてみると90周年、100周年、これからいろんなことがあります。僕の個人的な話になります。釧路の地元を見ていると、特に音楽系で若い人たちが活躍しています。知っている方も多いと思いますが、世界的なトランペットの奏者の方がいます。それ以外にも、北海道で1校ではできないけど、いくつかの学校が集まって合同で金賞を取ったことがあります。そういった意味で、地元をどのように生かしていくか、こちらにも挑戦するというのがあったと思うのです。それって、地元を上手く生かしながら高齢の方にも活躍してもらって、そういったのがあったらいいのかなど、具体的な話はないのですけど、そんなことを感じておりました。

ここからは皆さんに心配かけていたので報告です。僕は、脳梗塞からもうすぐ3年となります。だいぶ口が回るようになったので皆さんには「先生、大丈夫だね」と言われるのです。確かに、最初のころは「しんかんせん」という言葉が出なかったり、自分の音楽の「バイオリン」とか「ビオラ」が出なかったりで、どうなることかと思ったのですが、今、このぐらいに出るようになりました。ただ、細かいことを言うと、多分、隣で見ていて下さっていて「食べるのが遅いな」などとお気遣いいただいたと思うのですが、まだまだ細かいところがあるけども、僕も少しずつ戻っていければと思っています。

思ったことは、僕は63歳の時に脳梗塞になりましたけども、皆さんたちは、まだまだ若い、なんでもないと、思っているところどころに「落とし穴」があるのかなと思います。僕は皆さんにお気遣いいただいていると思いますけど、先ほどからあそこを「長老席だ」と言われているけど、皆さんはとっても若い方たちで、僕はすぐく助けてもらって、それで僕はここに来ることをいただきました。

先ほどから「少しまとまって、云々」だけど、1人でポット入ってみると、意外といい心地だなと私には感じております。そんな感じで、みんなに見てもらいながら、僕も少しずつ、また戻って行ければと思っています。

最後は仕事の話になってしまいますけども、これから90周年、100周年、いろいろあると思いますが、まずは、ご自身の健康に気をつけて、その上で人に尽くすことをやって行けたらいいなと思います。私も神様が良くしたもので、「先生、手や足はちゃんと仕事できるように残しておくからな」と。手のほうも、字を書くのには困らない。相変わらず、カルテは手書きでやっています。そんな感じで、神の手は良くしてくれたもので、僕も「やれることを頑張る」と思っています。

どうもありがとうございました。

Gグループ



皆さん、こんにちは。吉田といいます。先ほど「長老席に座ると眺めもいいものだな」というお話をされていましたが、冒頭に「長老席にどうだ」と言われて、遠慮させてもらいますと断りました。大変失礼いたしました。次回は機会があれば座ってみたいと思います。

私ども9人が集まりまして、26日18時30分より

『八喜寿司』で開催いたしました。参加メンバーは、松井委員長と私と倉見君と須藤君、日理君、東堂君、田中君、飛び入り参加の小野寺君と滝越委員長です。9名で真面目に最初のうちはテーマに沿って、たくさんテーマあったのですが「女性の会員の入会について」とか「120人になったら打ち止めするのか」とか、そのような話を真面目にしていたのですが、ビールで乾杯をしてから話がそれてしまい取り留めのない話になってしまったのです。

でも、ロータリーの話からはそれずに、場はかなり盛り上がり、2次会3次会まで行った方もいます。

なんだかんだいって、このように集まって、情報交換というテーマでワイワイ・ガヤガヤやることによって、普段は話せない方と喋ることによって、さらにロータリークラブの結束力がさらに深まっていくのだなと思いますので、そろそろ委員長、副委員長から降ろしていただきたいのですが、何とかできる限り参加したいと思っています。

本当は田中君が発表する予定だったのですが、急遽、朝になって来られないということになりました。実は私は、本日14時半ぐらいの飛行機で札幌に出張の予定をしておりましたが、わざわざ飛行機を次の15時半ころのHACに切りかえて、喋りに来させてもらいましたので、皆さん拍手をお願いします。

Hグループ



Hグループで担当したサブリーダーの村上です。先ほどご紹介あったのですが、岩田リーダー、私、工藤エレクト、篠原先生、高橋パスト会長と滝越委員長、もう1人が、ちょっと忘れちゃったけども、総勢6名でした。6名なのですが、乾杯でスタートした時は4人だったのです。私も炉辺会合が4人というのは初めてで、これはどうなることかなと思ったのですが「いやいや、村上、意外と人数少ない時のほうが盛り上がる」と言うのです。いざ乾杯してみると、言われたとおりワイワイ・ガヤガヤと話が進んで行くのです。

私はサブリーダーを何度かやらせていただきましたが、決まって、面白い話の前後を忘れてしまうのです。書きとめていなかったのか。それで、最近流行りのAIボイスレコーダーを炉辺会合に持ち込んで、議事録と要約を取ろうということで使ってみました。結論から言うと、真面目な会議とかは抜群にいいです。私も仕事で使っています。ただ常に飲んでる炉辺会

の場では、A I もまだまだです。

というのは、とある方がお酒にまつわる面白い逸話を話してくれたのです。それがA Iにかかると、「ロータリークラブの慣行とお酒にまつわる行動規範」とかになってしまうのです。面白くもなんともないのです。A Iですから、どんどんどんどん進化するとは思いますが、でも、まだまだこれぐらいかというところでは。

話が始まって、なかなかテーマにたどり着いたり、離れてみたり、脱線したりで、面白い話ばかりで良い話が出てこないのです。

その中で、工藤エレクトの「カメラの話」になったのです。「デジカメと昔に使っていた黒い布を被っての大判カメラ、どっちがいいのですかね」と聞いたのです。すると「それは大判カメラに決まっている。良い・悪いいろいろあるけれども、写真といたら大判カメラなのだ」と言うのです。ところが、前後、いろいろ作業的にも仕事のことも大変だということも言っていました。今のデジカメでは、撮った後で補正が効くのですけども、大判カメラの時はそんなことできません。100人の被写体を前にした時に、シャッターを押した瞬間に「あっ、この人と、この人、いま目つぶった」と当時は瞬間に分かったそうなのです。ところがデジカメが普及した今では、分からなくなってしまったという話もありました。便利な物が人間のせっかくの能力をそいでいくのかなと感じた次第です。

もうひとつ、常陸宮殿下がずいぶん前に釧路にお越しになった時に、写真撮影を担当されたそうなのです。その時は流石に緊張したと。しかも、条件を付けられ

て「シャッターは2回までだ。切れるのは2回だけだ」と言うのです。それで余計に緊張して、宮様ですしシャッターを切る手が震えたというのです。

それをA Iに要約してもらったのです。すると、「その手の震えは、長年の飲酒によるところが大きいです」と。冗談ですけど。

それで写真の話から90周年の今回のテーマに近づいていったのですけども、「80周年の時は集合写真を残せなかった」という話が出ていました。「だったら、90周年は忙しいかもしれないけれど、みんなで全体写真を残そうじゃないか。その写真はデジカメではなくて大判カメラで残そう。ところが、写真の撮影者は工藤会長ですから自分は集合写真の被写体になれないのです。「最初に工藤会長を入れたデジカメで1枚、それと工藤会長が自ら大判カメラで撮った1枚、それと大判カメラで撮っている工藤会長を含めた情景を斜め後ろから撮った1枚、この3枚を残そうじゃないか」という話になって最後、盛り上がり終わった次第でございます。

最後になりますけれども、炉辺会合はやっぱりいいなとつくづく思いましたね。人数は夜例会に比べると少ないのだけれども、ロータリークラブを知る、ロータリークラブを楽しむ、そういった要素は詰まっています。これからも炉辺会合楽しみにしていきたいなと思った次第でございます。

私からの報告は以上です。ありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 栗林 定正君 今朝 61 才になりました。これからも頑張ります。
- 舟木 博君 週末から又の四国御遍路に行って参ります。今回は高知から宿毛まで歩きます。
- 篠原 信雄君 奥様誕生祝
- 村上 祐二君 時代に逆行して、写真食堂を作りました。
- 池田 一己君 先日、創業から満 20 年になりました。関わって頂いた皆様に感謝申し上げます。

今年度累計 381,420 円